

Together

Shukutoku University Magazine
No.250 | 2026.10.1

学生×学長 座談会 ～1年生が語る本音～
私たちが選んだ淑徳大学。
入学から4カ月の今、感じること

淑徳人 No.244 Interview
「やってみたい」の好奇心が
人生の可能性を広げる

CAMPUS NEWS
SHUKUTOKU TOPICS

ともいきのこころ
学祖・長谷川良信先生の足跡

with Vol.11
淑徳大学の「今」をお届け!



学長 みなさんが学んでいる専門分野について、この4カ月間で見方や考え方に変化はありましたか？

平野 最初は単純に「子どもが好き」という気持ちだったのですが、学んでいくうちに、子どもについて考えることは、人と人との関係を考えることであると気づきました。最近参加した、小学生と関わるボランティア活動では、どのように声をかければ子どもたちに伝わるのかを必死に考えました。先生方の指示を待つだけでなく、自分で考えて動く大切さも実感しました。

学長 みなさんが入学してから約4カ月が経ちました。今日はまず、どんな思いで淑徳大学に入学したのかを教えてください。

鈴木 私は社会福祉士をめざしていて、1年



学長 みなさんが入学してから約4カ月が経ちました。今日はまず、どんな思いで淑徳大学に入学したのかを教えてください。

鈴木 私は社会福祉士をめざしていて、1年

学長 みなさんが学んでいる専門分野について、この4カ月間で見方や考え方に変化はありましたか？

平野 最初は単純に「子どもが好き」という気持ちだったのですが、学んでいくうちに、子どもについて考えることは、人と人との関係を考えることであると気づきました。最近参加した、小学生と関わるボランティア活動では、どのように声をかければ子どもたちに伝わるのかを必死に考えました。先生方の指示を待つだけでなく、自分で考えて動く大切さも実感しました。

「好き」や「なりたい」から 一歩深い学びへ

実は自分の方が相手から励まされ、支えられている事実に気づく瞬間があります。そのような「利他共生」の本質について、担当の先生方がさまざまなアプローチで解説してくれます。

峰内 僕の場合は、歴史が得意だったので歴史学科を選びました。淑徳大学は、高校2年生からオープンキャンパスや学園祭に合計6回も参加し、楽しそうな雰囲気が自分に合っているという直感がありました。

学長 大学の雰囲気は自分に合っていると



学長 教室での学びと現場での体験を結びつける、まさに本学が大切にしている「実学」を体験しているのですね。鈴木さんも、福祉施設での実習はこれからだと思いますが、前期を振り返っていかがですか？

鈴木 私も社会福祉へのイメージが変わりました。以前は、制度を使って人を支援するイメージが強かったのですが、授業を通じて、当事者と同じ場所で生活し、その環境を知りながら改善していくという考え方を学びました。また、社会福祉士の国家資格を取得することは、専門性を身につけ、社会からの信頼を得ることにつながると知り、改めて資格取得への意欲が高まりました。

学長 淑徳大学の創立者・長谷川良信先生も、支援を必要とする人々が暮らし地域に自ら身を置き、生活改善に取り組みました。理論と現場の両方を大切にする姿勢は、みなさんにも受け継いでほしいですね。峰内さんはどうですか？

峰内 授業ではグループワークが多く、クラスメイトと話しながら学べるため、内容が強く印象に残ります。先生もとてもいいねに教えてくださるので、大学で学ぶ楽しさを感じています。

学長 主体的に参加するアクティブラーニ

ングの学修スタイルが、峰内さんに合っているのですね。

上原 看護の授業では、患者さんに一方的に看護を施すのではなく、ケアを提供するなかで、自分自身も学ばせていただき、成長していく関係性があることを学びました。入学前に共感した「利他共生」という精神が、看護の実践にしっかりと結びついていることを感じます。

自分の生き方を決める 第一歩を踏み出そう

学長 最後に、これから卒業まで、どのように過ごしたいかを聞かせてください。

平野 卒業間近になって「先生になる」と自覚するのではなく、今から「自分はもう先生になる人」という意識を持ちたいです。そのためにも、子どもと関わるボランティアや実習の機会には、積極的に参加していきたいです。この大学には自分を成長させてくれる機会がたくさんあるので、このあたも楽しみです。

峰内 僕はまだ、将来の目標が決まっていません。だから、大学での4年間を「目標を見つける時間」にしたいです。今はボランティアや軽音サークルの活動など、ジャンル



を問わず挑戦しているところです。興味を持つたらとりあえずやってみる。その姿勢を貫き、本当に熱中できるものを見つければいいです。

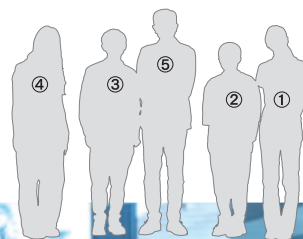
上原 私は、看護の知識や技術だけでなく、コミュニケーション力を磨いていきたいです。人前で話すと、すごく緊張してしまうので、ボランティアやアルバイトなどを通じて、高齢の方や地域の方など、たくさんの人に関わってみたいです。経験を重ねて、患者さんから信頼される看護師になりたいです。

鈴木 社会福祉士になることは決まっていますが、児童福祉と高齢者福祉のどちらに進むかはまだ、迷っています。もともとは子どもを支えたいと思っていたのですが、授業を受けていくなかで、高齢者福祉にも興味が出てきました。今すぐ答えを出すのではなく、授業や実習、ボランティア活動などを経験しながら、自分に合う道を見つけないです。

学長 目標が決まっている人も、悩んでいる人も、最終的に自分の生き方を自分で決めることが、大学生の特権であり、学びのプロセスです。悩んだときは、教職員や先輩たちのアドバイスを受けながら、社会人としての自分の人生の第一歩をこの淑徳大学から踏み出していきましょう。

PROFILE

- ① 鈴木 愛未さん
総合福祉学部 社会福祉学科1年
- ② 上原 凛さん
看護栄養学部 看護学科1年
- ③ 峰内 健太郎さん
人文学部 歴史学科1年
- ④ 平野 麻璃亜さん
教育学部 こども教育学科1年
- ⑤ 山口 光治学長



※座談会は8月上旬に実施

学生 × 学長 (座談会)

～1年生が語る本音～

私たちが選んだ淑徳大学。 入学から4カ月の今、感じること

4月に入学した1年生に、学長が「淑徳大学で学ぶ意味」を問いかけました。
新しい価値観との出会い、第一志望ではなかった葛藤、模索中の将来の目標。
入学から4カ月を振り返りながら今、感じていること、大学生活について率直に語りました。

それぞれの思いを胸に 大学生活が始まった

学長 みなさんが入学してから約4カ月が経ちました。今日はまず、どんな思いで淑徳大学に入学したのかを教えてください。

鈴木 私は社会福祉士をめざしていて、1年

次から福祉の実習ができることに魅力を感じて入学しました。ただ、他大学が第一志望だったので、入学当初、1カ月くらいはモヤモヤした気持ちを抱えていました。

平野 わかります。私も幼稚園教諭をめざしているのですが、淑徳大学は併願校だったので、入学するまで詳しく知りませんでした。第一志望に行けなかったこともあって、入学直後は「友達もつくらず、一人で黙々と

勉強しよう」と決めていたくらいです。

学長 そうだったのですね。そこから気持ちが変わりましたか？

平野 大きく変わりました。きっかけは、最初の授業で「建学の精神」について学んだことです。助け合うことの大切さや、人と人が支え合い、お互いに影響し合って生きていると知り、「本当にそのとおりだな」と。それで勇気を出して隣の人に話しかけてみました。今ではすばらしい友達に恵まれ、お互いに助け合いながら過ごしています。入学直後は大きく異なる大学生活になりました。

上原 私も、心と体を支える看護師をめざして国公立大学を志望していたのですがご縁がなく、淑徳大学への進学を決めました。決めた手になったのは建学の精神です。「患者さんを助けてあげる」という一方的な関係ではなく、患者さんに関わるなかで自分も学び、共に成長していくという考え方にひかれました。

学長 平野さんが話してくれた授業は、「建学の精神」への理解を深めるため、1年生全員が受講する「利他共生」科目のことです。実は、この科目こそ、他大学にはない本学独自の強みなのです。各学科の専門の学びにプラスして学べることに大きな意義があります。例えば、みなさんがめざす教育や看護、福祉といった人と関わる仕事は、「相手のために」という思いが出发点になることも多いですが、現場での実践を重ねると、



学祖・長谷川良信先生の足跡

—写真から広がる長谷川良信先生の世界—



写真について

学生時代の良信先生が兄の長谷川善治（向かって左）と二人で一緒に映りこんだ写真です（1910年代前半）。現在知られている二人で写った写真は、この1枚のみです。

3 新聞人としての良信先生

『萬朝報』は、1892（明治25）に黒岩涙香（くろいわるいこう）1862～1920）が創刊した日刊新聞で、反骨精神旺盛な紙面から、多くの読者の支持がありました。

善治が社長に就任したのは1928年暮れで、朝刊が復活します。社長在任期間は8年余り。善治が社長時代に良信先生は主筆、つまり編集長をつとめています。1929年（昭和4）4月から1931年9月まで2年半余りの短い期間でした。世界恐慌の影響を受け、日本経済も危機的な状況で「昭和恐慌」のまっただ中の時期でした。

4 軍縮会議応援団とその後の展開

編集長在任中の1930年、ロンドン海軍軍縮会議が開かれ、『萬朝報』は国内で会議の応援団を募集しています。良信先生は萬朝報社の特派員として派遣されました。

会議終了後、欧米各国の社会事業施設をはじめ教育、宗教事情などを視察してから帰国しています。

編集長時代の良信先生は、大正大学での教鞭、マハヤナ学園での諸事業を遂行しながら社会事業の危機を脱するために、「東京私設社会事業連盟」を結成するなど、さかんに活動も行っている時期でした。こうした活動も新聞記事に活かされています。

参考文献

長谷川匡俊
『長谷川良信の生涯』淑徳選書7（2020年）
長谷川匡俊
『反骨の新聞人 長谷川善治』大空社出版（2025年）

淑徳大学アーカイブズ（千葉キャンパス1号館3F）▶
（作成 淑徳大学アーカイブズ）



1 長谷川良信先生の兄弟

長谷川良信先生は、七人兄弟の五男でした。2歳年上に善治という兄がおられました。

良信先生は、6歳の時からの養子先の得生寺で、寺の修行を重ねながら、学業に励み、浄土宗第一教校を経て、宗教大学（大正大学前身）に進学します。仏教の精神を基礎に福祉の分野で生涯をかけて活躍していきます。一方の兄善治は、在野の立場で活動します。彼も社会事業につながる活動を行っており、互いに影響を与え合っていたといえます。

2 兄善治の支援

兄善治は、両親や兄弟、彼自身の家族のほか、長兄の子どもたちの面倒も見えており、人一倍家族思いであったことも知られています。良信先生が1919年（大正8）に創設したマハヤナ学園の初期の趣意書にも名前を連ね、創立12周年記念式典には、来賓として祝辞を寄せました。良信先生の事業に対して、支援を惜しまなかった人物のひとりでした。

地域を見る目が、仕事の武器に

「やってみたい」の好奇心が
人生の可能性を広げる

仕事の武器に

淑徳人
No. 244
Shukutoku OB&OG
Interview



インテリアコーディネーター

木村 昇汰さん

Shota Kimura

コミュニティ政策学部 コミュニティ政策学科 2016年卒

地域を見る目と調査力が
空間づくりの武器に

現在はインテリアコーディネーターとして、住宅の内装や家具、壁紙、キッチンや床材など、空間を構成する色や素材、設備をトータルでコーディネートしています。大学卒業後は、住宅の屋根材や外壁材などを取り扱う建材の卸売企業に就職。もともと建築やインテリアに興味がありました。仕事を通して「自分で何かを生み出す仕事があった」という思いが強くなり、インテリアデザインの道へ進みました。

仕事で大切にしているのは、「どんな人がこの場所で暮らすのか」を徹底的に考えることです。地域の特性や住む人のライフスタイルを調査し、その土地に暮らす人の心に響く提案を心がけています。この視点の原点は、大学時代に地域コミュニティの課題解決を学んだゼミでの経験です。地域のお祭りやボランティア活動に参加する中で、街を観察し、「この街にはどんな人が暮らし、どんな価値観を持っているのか」を考える習慣が身につきました。そうした地域分析に基づくインテリア設計は、お客さま一人ひとりに寄り添った提案を行うための大きな強みになっています。



木村さんが手がけたモデルハウス

ルハウスを手がけた際には、お客さまと議論を重ねながら地域分析を行い、ターゲットを設定。ドアの取っ手や収納といった細部までこだわり抜いて空間をつくり上げました。その結果、「110年の社史の中でいちばんおしゃれなモデルハウス」と評価していただき、大きな自信につながりました。

インテリアの力で
地域の未来をもっと明るくしたい

「やってみたい」と思ったら一歩踏み出す。その積み重ねが、今の自分につながっています。これから取り組みたいのは、地域コミュニティの形成と空き家問題の解決です。地方では人口減少に伴って空き家が増え、治安や火災などさまざまな課題が生まれています。インテリアの力で空き家に新たな価値を生み出し、若い世代が「住みたい」と思える住環境をつくることで、地方創生に貢献したいと考えています。



千葉第二キャンパス

看護栄養学部新入生セミナーで交流を深めました

4月6日(月)に、看護学科・栄養学科合同で新入生セミナーを実施しました。まだ入学後1週間で授業も本格的にスタートしていない中、学部と同級生同士で気軽に交流を深めるのが目的の企画です。23のグループが3教室に分かれ、運営スタッフである先輩学生の説明の下で、まずは自己紹介からスタート。その後のグループワークでは、学生オリジナルの学食メニューを考案しました。学生の若くて斬新なアイデアならではのメニュー案が次々と飛び出し、参加者をうならせました。この中でグランプリに輝いた「油TOKUそば」は、嬉しいことに後日学食で実際に提供されることが決定!また千葉第二キャンパス内で活動しているサークル紹介も行われ、先輩達からの熱い?勧誘メッセージが披露されました。

看護学科と栄養学科は、同じキャンパス内で学びながら授業科目が異なる関係で学生同士の交流がなかなかありません。本セミナーが、学科を越えた横のつながりを広げるきっかけになることを期待しています。



グループメンバーとは初対面ながら、リラックスした様子で説明を聞いています。



本セミナー運営を進めて頂いた両学科2～4年生の皆さん、ご苦勞様でした!

看護学科「卒業生の集い」を行いました

7月4日(土)に、毎年恒例の「看護学科卒業生の集い」を実施しました!2026年3月に卒業し、看護師や保健師、大学院生として活躍している27名が学び舎に戻ってきました!千葉第二キャンパスのラーニングcommonsにて、山口学長、日野副学長、同窓会代表幹事の長澤様からご挨拶をいただいた後、食堂「リラ・カフェ」にてオリジナルスイーツなどを楽しみながら、学友たちと看護職1年目の大変さや悩み、業務内容などについて語り合い、互いの近況を報告し合いました。

参加者からは、「緊張状態で働いている中、久しぶりの大学で友人や先生と再会し、息抜きをすることができました」などの意見が寄せられました。仕事で疲れたら、いつでもキャンパスの先生方や職員の皆さんに会いに来てください。卒業生の皆さんの今後の活躍を応援しています!



新人看護職・大学院生ならではの大変さ、悩み、そしてやりがい。様々なことを共有しました。



ラーニングcommonsで集合写真。久々の再会に皆さんいい笑顔です!

千葉キャンパス

BEYOND 900 観蓮会
— 千葉開府900年にふれて、大賀ハスを中心にその先へ —

教育福祉学科長の伊原浩昭先生が指導する3年生の地域教材研究開発ゼミナールでは、学生9名が参加し、7月18日(土)に東京大学旧緑地植物実験所(千葉市花見川区)で開催された観蓮会において現地調査を行いました。約2,000年前の種子から発芽・開花した大賀ハスを実際に観察し、大賀一郎博士の功績や、今も受け継がれる歴史的・学術的価値について理解を深めました。

本学の学びは教室での学修にとどまりません。伊原先生は、地域に息づく歴史や自然、文化に直接触れる機会を大切にされており、今回の観蓮会もその実践の一つです。学生たちは現地ならではの気づきや発見を通して、地域を見つめる視点を広げ、未来につながる学びを育みました。

2026年は、千葉開府900年の節目の年です。地域の宝である大賀ハスを調査し、その歴史や文化的価値を見つめ直すとともに、その先へ向けた新たな価値創造を考える、まさに「BEYOND 900」の可能性を探る貴重な機会となりました。



車いすスキル講座開催

車いすスキル講座は、教育福祉学科特別支援教育課程が主催する正課外講座(年2回、計4日間開催)です。車いす操作や介助法、インクルーシブなゲーム体験を通して、車いすユーザーへの理解と支援の姿勢を育みます。2日間の講座を修了すると、日本車いすインストラクター協会認定「準初級車いすインストラクター資格」を取得できます。講師は同協会代表理事で、学生は短期間で高度な操作技術を身につけ、支援者としての意識を高めています。



STAY STREET2026に参加

車いすバスケットボール全国選抜大会学生実行委員会は、「STAY STREET2026」に参加し、「長谷川良信記念・千葉市長杯争奪 車いすバスケットボール全国選抜大会」のPRを目的とした体験ブースを出展しました。学生が来場者へのPR方法やブース運営を主体的に企画・準備・運営し、多くの来場者に競技の魅力を発信しました。今後も学生主体の活動を通して、地域との交流を深めていきます。「長谷川良信記念・千葉市長杯争奪 車いすバスケットボール全国選抜大会」は、2027年2月に開催予定です。



東京キャンパス

【経営プロジェクト研究II】「地域創生×日本酒」をテーマとした体験型学習
〈経営学部〉

経営プロジェクト研究IIでは、地域の伝統産業やビジネスモデルについての実践的な研究に取り組んでいます。井上善美先生が担当する「地域創生×日本酒」では6月、酒蔵と連携した体験型学習を行いました。

東京八王子酒造は、地元の資源を活かしたこだわりの酒造りを行いながら、地域コミュニティの活性化にも大きく貢献している蔵元です。学生たちは6月上旬、東京八王子酒造の酒米の田植え体験イベントに参加しました。他の参加者とも声を掛け合いながら作業を進める中で、地域のコミュニティが持つ温かさや、一つの農作物を育てる大変さを肌で感じました。

福生市の石川酒造は、国の登録有形文化財に指定された建造物を有する歴史ある蔵元です。6月中旬に見学へ伺った学生たちは、伝統を守りながらも地域に開かれた空間づくりに感銘を受けました。酒造りへのこだわりや日本酒ができるまでのプロセスを杜氏から直接教わり、伝統産業に関わる方々の情熱や人との繋がりがこそがビジネスの原動力であることを強く実感しました。

さらに6月下旬には、田植えでお世話になった東京八王子酒造の見学に訪れました。地元の原材料へのこだわりや地域住民を巻き込むイベントなど、「地域創生×日本酒」を軸とした実践的な経営戦略を深く学ぶ機会となりました。

一連の体験型学習を通じて学んだ、地域の魅力を発信しビジネスとして持続させるためのヒントをもとに、学生たちはこれらの貴重な経験を糧に、さらに研究を深めていく予定です。



一般の参加者や地域のお子さんと田植えに挑戦



プロフェッショナルの視点から酒造りを学ぶ

国際研究会議で表現学科の実践を発表
〈人文学部〉

2026年8月1日(土)、板橋区立教育科学館で「第1回 板橋区絵本・デザイン都市問題国際研究会議」が開催されました。この会議は、絵本とデザインの可能性を都市の課題解決や新たな価値の創出につなげることを目的とし、国内外から絵本、デザイン、建築、都市計画などの研究者・実践者が参加しました。

本学からは、杉原麻美准教授が「編集の視点から創造都市を考える―『絵本のまち板橋』における大学と地域の実践―」と題して発表しました。表現学科では2021年度から、学生が「記者」となり、美術館や図書館、地域の店舗、クリエイター、出版社・編集者などを取材し、Web記事を制作しています。その後も、「いたばし国際絵本翻訳大賞」のPR動画制作や、図書館との共催による児童向け「物語づくりワークショップ」へと活動を広げてきました。発表では、こうした活動を通じて、学生が地域に点在する人や文化資源をつなぐ「結び目」となり、大学と学生が地域の「編集者」として役割を果たし得ることを提起しました。

当日は表現学科の教員と学生2名も会議を見学し、国内外の研究者による多彩な発表を通して、絵本やデザインが持つ可能性と、大学が地域と連携する意義について理解を深めました。



発表はプラネタリウムで行われました



左から、当日参加した表現学科の川崎紀弘准教授、小野菜寧さん、狩野初妃さん、佐々木裕里子助教

学生の声

「海外の研究者による講演を聴き、絵本だけでなく建築やデザインなど幅広い分野に触れることができました。板橋区にある大学で学ぶ学生として、絵本や地域との関わりをさらに深く学びたいです。」
小野菜寧さん(人文学部表現学科2年生)

「デザインが世界や地域の人々をつなぐ力を持っていることに感動しました。板橋が絵本のまちであることを知り、地域への興味も深まりました。身近な建物や絵本の工夫について、もっと学びたいです。」
狩野初妃さん(人文学部表現学科1年生)

埼玉キャンパス

埼玉県「夢の保育士後押し事業」じゅんび体操dayに参加しました
〈教育学部〉

7月11日(土)、「夢の保育士後押し事業」じゅんび体操dayに、教育学部の教職員と学生が参加しました。

この事業は、保育士の人材確保が課題となる中で、埼玉県が今年度から始めたものです。中学生・高校生が夏休みに保育園で3日間の体験を行うものであり、その事前説明会(じゅんび体操day)に、県内の保育士養成校15校が参加して、「体験授業プログラム」を行いました。

淑徳大学は、教員・保育士養成支援センターの梅原晴美先生を中心に、「子どもとなかよしになる! ☆Shukutoku流☆自己紹介の極意」のテーマのもと、25分間のプログラムを2回行いました。園の子どもの中に入って、どのように話しかけるか、どのようになかよしになっていくか、現場で体験者を受け入れた経験に基づく実践的なアドバイスを踏まえて、名札づくり、自己紹介グッズづくりを行いました。教育学部の学生も、自己紹介やグッズの見本、中高生へのアドバイスに協力してくれました。

参加者は互いに見ず知らずの中高生であり、短い時間の中、製作した名札を使って自己紹介する中で、いくらか心がほぐれてきたようでした。この夏、園で子どもとなかよしになった経験が、保育士という夢を描く後押しとなることを期待したいと思います。



1回目の様子



自己紹介実演中

1年間の学びの成果を山口伸樹 笠間市長の前で報告しました
〈地域創生学部〉

地域理解実習笠間市クラスでは、昨年度の6月より地域課題、地域文化、地域産業、地域資源というそれぞれのテーマについて笠間市で実習をおこなってきました。

地域理解実習VIでは、学生はテーマ毎にグループに分かれて、1年間の学修成果をまとめる実習をおこなってきました。それぞれのテーマについて「学んだこと、考えたこと、そのうえでの提案」を資料にまとめ、15分のプレゼンテーションをつくりあげます。

7月17日(金)には、笠間市役所の会議室をお借りして、成果報告会を実施させていただきました。学生は入学してから9回笠間市に訪問し、現地の方々のご協力をいただきながら様々な学びをしてきました。1年間の感謝の想いを込めて成果報告をおこないました。

地域理解実習笠間市クラスの実施にご協力をいただきました笠間市の皆さま、実習全体をコーディネートいただきました笠間市企画政策課の皆さまに厚くお礼申し上げます。

各グループの報告タイトル

- ・笠間における地域課題
- ・文化が彩るまち・笠間～発信で広がる地域の魅力～
- ・笠間市の地域産業
- ・KASAMA 観光資源



淑徳大学とあなたとの架け橋に、あなたと共にある広報誌

Vol.11

2026
WINTER
ISSUE

with
[ウィズ]



二次元コードを
カメラで読み取って、
実際の投稿を
チェックしてね!

SNSで

淑徳大学の「今」をお届け!

学生有志による広報チーム「しゅくとクルー」が、大学のリアルな魅力を
学生目線で発信しています。



チーム淑徳で淑徳をより良く!
学生参画スタッフ活動をご紹介します

◆学生参画スタッフ活動とは

2023年度に始動した、学生が大学の課題解決に向けて大学に対して提案する取り組みです。学長はじめ淑徳大学の教員・職員、全学生が参加できる活動報告会を年2回(例年9月、2月)開催し、大学運営に学生の声を反映していく正式な活動です。今年度は11学科19名、1〜4年生で活動しています。

◆課題解決に向けたこれまでの活動

私たちは3つの班で活動しています。また、東京キャンパスの学園祭やサークルフェスにも出店しています。

【S-BASIC班】

2023年度から始まったS-BASIC(全学共通基礎教育科目)を振り返り、学生と教職員向けのアンケート調査を行いました。またS-BASICの学内広報動画の作成や受講生の声を大学ホームページで紹介しています。

【キャンパス間交流班】

キャンパス間交流班は主に学生間交流の促進を目指してきました。キャンパスを超えたつながりの少なさに注目し、サークル活動の活性化に向けた情報発信等を提案しています。

【淑徳ニューディール班】

学内アルバイトの在り方について検討を進めています。学生向けのアンケートを行い、その結果を踏まえて学内のアルバイト情報の発信方法について検討を進めています。

◆60周年記念事業への参画や
大学委員会と意見交換会も実施

2026年度は、60周年記念グッズ製作のデザインを担当し、大学教務委員会や大学学生厚生委員会と意見交換会も実施しました。是非、皆さんの活動見学や活動報告会へのご参加をお待ちしております!



2026年度学生参画スタッフ



2025年度活動報告会



2025年度活動報告会後の集合写真



2025年度淑徳祭出店時の様子



学生参画スタッフ活動について
詳しくはこちらから

(問い合わせ先)
学生参画スタッフ事務局
評価・IR室(大学事務局長室)
nishou4@daijo.shukutoku.ac.jp

社会福祉学科・卒業生

震災15年の思いを伝える詩集を出版

社会福祉学科の卒業生・北村雅さんが、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故によって奪われたふるさとへの思いをつづった詩集『ふるさとを奪われて』を出版しました。

震災発生当時、福島県双葉町社会福祉協議会の職員だった北村さんは、原発事故により避難を余儀なくされ、さいたま市や加須市での避難所生活を経て、栃木県小山市に転居しました。2019年末には、双葉町の自宅が解体されたことを業者からの電話で知り、そのやるせない思いを「解体記念日」という詩で表現。これをきっかけに、原発事故やふるさとへの思いを詩に託すようになりました。

東日本大震災から15年を迎えた2026年3月11日には、小山市で「ふるさとを奪われて」と題した講演を行い、今回出版した詩集を紹介。「ふるさとを失ったのではなく、奪われた」と原発事故への思いを語るとともに、「15年前の事故を忘れないでほしい」と来場者に呼びかけました。

卒業後も、さまざまな形で支援を必要とする人々に寄り添ってきた北村さん。自身の経験を言葉にすることで、原発災害の記憶と福島を今も伝え続けています。



『詩集 ふるさとを奪われて』
北村 雅 著
コウド舎
福島県双葉町で被災した北村さんが、原発事故などをテーマにつづった22編の詩。怒り、無念、故郷への思いなど率直な気持ちが
つづられています。



学園祭

詳細は特設サイトをご確認ください。

10/24(土)・10/25(日)

学園祭
TOP



千葉キャンパス

龍澤祭

特設サイトはこちら



<https://www.shukutokufes.com/chiba/>

埼玉キャンパス

淑徳祭

特設サイトはこちら



<https://www.shukutokufes.com/saitama/>

ホームカミングデー

千葉キャンパス

千葉第二キャンパス

東京キャンパス

10/24(土)

埼玉キャンパス

10/25(日)

詳細は大学ホームページを
ご確認ください



<https://www.shukutoku.ac.jp/alumni/>

千葉第二キャンパス

翔蓮祭

特設サイトはこちら



<https://www.shukutokufes.com/chiba2/>

東京キャンパス

淑徳祭

特設サイトはこちら



<https://www.shukutokufes.com/tokyo/>

千葉キャンパス

総合福祉学部
コミュニティ政策学部
大学院 総合福祉研究科
〒260-8701
千葉県千葉市中央区
大巖寺町200
Tel 043-265-7331

千葉第二キャンパス

看護栄養学部
大学院 看護学研究科
〒260-8703
千葉県千葉市中央区
仁戸名町673
Tel 043-305-1881

埼玉キャンパス

教育学部
地域創生学部
〒354-8510
埼玉県入間郡
三芳町藤久保1150-1
Tel 049-274-1511

東京キャンパス

経営学部
人文学部
留学生別科
〒174-8631
東京都板橋区
前野町6-36-4
Tel 03-3966-7631

発行日 2026年10月1日

編集 淑徳大学
大学広報誌
編集委員会

発行 淑徳大学
大学事務局

<編集委員会>

委員長：川崎 紀弘(人文学部)

委員：菅野 道生(総合福祉学部)、小林 秀樹(総合福祉学部)、芹澤 高斉(コミュニティ政策学部)、
今野 智子(千葉事務部)、氏原 将奈(看護栄養学部)、土谷 庸(看護栄養学部)、
瀬谷 直貴(千葉事務部)、吉田 昌弘(教育学部)、西村 敏也(地域創生学部)、
伊藤 舜真(埼玉事務部)、雨宮 寛二(経営学部)、藤川 慎吾(東京事務部)、
海老原 美緒(大学事務局アドミッションセンター)

大学広報誌「Together」読者アンケートのお願い

大学広報誌「Together」は4月と10月の年2回発行しています。保護者や卒業生の皆様に向けて、「淑徳大学の今」をお届けします。皆様の貴重なご意見、ご感想をお聞かせいただきたく、右記より読者アンケートへのご協力をお願い致します。

<https://forms.gle/ZeBdqwVdiDWWe6357>



公式HP



公式Instagram



公式YouTube



公式X



アドミッションセンター
公式X



公式Facebook



淑徳大学
共に歩む これまでも これからも

淑徳大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS